



め た せ こ い あ

至 創 努 校 訓
誠 造 力

島根県立吉賀高等学校 〒699-5522 鹿足郡吉賀町七日市 937
電話 (0856) 78-0029 FAX (0856) 78-0742
HP アドレス <http://www.shimanet.ed.jp/yoshika/>

吉賀高校の教員として

吉賀高等学校 校長 齋藤雅典

この一年で、通学バス回数券や部活動終了時刻に合わせたバスの運行（デマンドバス）など、すいぶん吉賀高校への支援が拡充されました。生徒数が減少する中、町内唯一の高校である吉賀高校を失うことはできない、地域の皆様のそうした切実な思いがあつてのことだと受け止めています。

さて、年度当初の職員会議で校長が示す学校経営方針の中には、次のような言葉があります。

★いつも心に留めて欲しいこと

私たちにとってこの吉賀高校は何年かしたら去って行く学校、たくさん勤める学校のうちのひとつの学校かもしれないが、「地域・保護者・生徒にとってはかけがえのない大切な学校」である。その思いを厳粛に受け止めよう。

これはずっと以前から代々の校長に引き継がれてきた文章ですが、今私は、私自身がこの「思い」を心の底から厳粛に受け止めてきていただろうかと反省しています。

私たちの職務は子どもたちの教育です。「学校の使命は、子どもたちによい習慣（学習習慣と生活習慣）をつけること」であり、「先生の仕事は、子どもたちが、わからなかったことがわかるように、できなかったことができるようにすること」です。（「よしか塾」に来られた藤原和博氏の言葉）このことは、どの学校に勤務しようと変わりません。しかし、地域・保護者・生徒の思いを受け止めるという視点に立つと、これで充分とはいえないような気がします。

中学校の先生方と話をすると、「吉高生には、さすが高校生は違う、という姿を見せてほしい。」とよく言われます。一緒に中高一貫教育を行い、また、地域の思いを受け止めて中学生に吉高を勧めるためにも、吉高生には立派であってほしい、そういう思いからの言葉であろうと思います。その言葉を聞いて私たちは「人に見られるから」ではなく、「生徒自身の成長のために」指導したいと考えます。このこと自体間違ひではありませんが、地域・保護者・生徒の思いにもっと寄り添って考えれば、さらにいろいろなことを考えることができます。地域の期待をうまく子ども達に伝えることで、子ども達がよりいっそう成長することができるのではないか、というようにです。今年の「きん祭みん祭農業文化祭」では、吉高生のいい姿を地域の人たちに見てもらおうという思いから、昨年以上にたくさんの生徒がボランティア活動などに参加しました。吉高をアピールするためにあえて制服で参加する生徒もいたと聞いています。地域の子どもである生徒は、地域の思いをしっかりと受け止めていたのかもしれない。

23年度から始まった吉賀高校の魅力化・活性化事業は、今年度で4年目に入りました。県や町の支援を受けて教育環境が整備され、「聞き書き」や「アントレプレナーシップ教育」などの地域に根ざしたキャリア教育も始まりました。しかし、学校の魅力化・活性化の中心にあるのは、なんと言っても成長した生徒の姿です。私たち教員がもっと地域・保護者・生徒の気持ちに寄り添い、他のどの学校でもない「吉賀高校の教員」であるという意識を高めること、そのことが必要なのではないか、今そのように考えています。

球 技 大 会

12月9日に球技大会が実施されました。選手も応援者も一生懸命でした。球技大会への取り組みでクラスの団結力を見ることができます。すべてのクラス、すべての生徒が一生懸命活動していたことを考えると、どのクラスの団結力も相当なものであると感じました。



＜結果＞（男子）	バスケットボール	1位	3年生A	2位	2年生A
	男子サッカー	1位	3年生B	2位	3年生A
（女子）	バスケットボール	1位	2年生A	2位	1年生B
	バレーボール	1位	2年生A	2位	1年生B

避 難 訓 練

12月5日に避難訓練が実施されました。これまでの避難訓練は定期試験等のイベントとあわせて実施していましたが、今回の避難訓練は、より実践的になるように何のイベントもない普通の平日に実施しました。また、消防署からも専門の方に来ていただき指導をもらい、消火訓練も実施しました。天候の関係で生徒が実際に消火器を使うことはしませんでした。生徒に代わって職員が実施しました。火災や災害は突然襲ってきます。いつでも適切な対応ができるように普段から心がけたいと思います。



【写真左】消防署の方から消火器の取り扱いについてユーモアのある説明をして頂きました。【写真右】職員に消火班という担当があります。そのメンバーである西尾先生が「火事だー！」の掛け声とともに見事な消火器の扱いで火を消しました。

デートDV講習

11月21日
にデートDV
(ドメスティッ

クバイオレンス)についての講義がありました。外部講師として専門家においでいただき、スライド等をつかって講義をしていただきました。男女間での一方的な威圧行為についての講義です。たとえ高校生のような未青年であってもきちんと考えておかねばならない問題です。3年生が対象ですが、就職でも進学でも来年には実社会に飛び出す生徒達には特に必要なことであると思います。



心の扉～人権・同和教育職員研修～

病」と「生徒理解」についてでした。本校の人権・同和教育担当者が実際にハンセン病療養施設に訪問研修にいきっており、その研修報告を踏まえてハンセン病とは何か、それによる差別の実態について学習しました。人権・同和教育について大切なことは、人権感覚を磨くことです。毎日生徒と関わる職員は特に人権に関する知識や理解を基にした実践は必須です。常に人権を意識し続けることで、よりよい教育活動につながるよう努力しています。

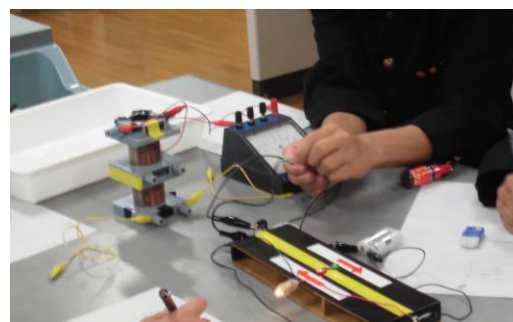
12月10日に本校の職員を対象とした人権・同和教育研修を行いました。今回のテーマは「ハンセン

出前授業

12月16～18日に中高一貫教育の取り組みである理科授業交流(出前授業)が実施されました。本校から理科教員が中学校を訪問し授業をしました。内容は多くの中学生がつまずく電流です。特に、最も身近なはずなのに一番理解しにくい交流についての授業でした。家庭電源はなぜ交流か？その理由が少しはわかってもらえたのではないのでしょうか。



16日に実施した吉賀中学校の出前授業の様子です。交流ならではの電気現象を実験を行うことで観察しました。



ストーブが新しくなりました

今年の冬から教室のストーブが新しくなりました。煙突式ストーブは設置が大変でしたが、今回の新しいストーブはファンヒーター式で設置も簡単です。煙突もなく安全性もしっかり考慮された優れたもので、さらに燃費もとても良くなりました。学習環境がまた一段とよくなり、生徒もきっとより燃費のよい学習(!?)になっているのではないのでしょうか。



センター試験

受験者にとって最も大きな試験です。部活動でいうと総体のようなものです。これまで積み重ねてきた努力がすべて出し切れることを願っています。

1月17と18日にセンター試験が実施されます。吉賀高校の生徒も10人近く受験します。大学受験はセンター試験で大きく左右されます。また、

1・2年教室にエアコン設置

今年度から3年生の教室にエアコンが設置されましたが、来年度からは1・2年生の教室にもエアコンが設置されることが決定しました。この設置の費用の一部に生徒会費用も利用されることから、生徒総会も開かれ、その予算執行に関する審議が実施されました。もちろん可決されました。来年度はさらに快適な環境で学習ができます。



柔道授業開始

今年も18日から吉賀高校の武道場で専門の講師の先生による柔道の授業が始まりました。まずは中学生が実施しました。この時期の柔道は、授業というより、もはや寒稽古といった感じです。しかし、生徒達は一生懸命体を動かし、楽しく柔道を学んでいます。柔道は日本発祥のスポーツの一つです。柔道の理念は「精力善用・自他共栄」。自分の力を様々な場面で良い方向に向くよう効果的に使い、そして皆でがんばっていくという意味です。柔道の授業を通して学んでもらえればいいと思います。



中高一貫教育だより -吉賀地域中高一貫教育事務局(島根県立吉賀高等学校内) -

小学生向け科学実験教室を吉賀高校で開催！

11月27日(木)、12月3日(水)の両日、町内5小学校の5・6年生を吉賀高校に招いて科学実験教室が開催されました。今回は、吉賀高校の理科の先生のアイディアで、光の性質を利用した小物作りをしました。今はやりのLEDライトと釣り糸を使い、普段あまり経験することのない光の美しさを作業を通して感じる事ができました。吉賀町内には中高合わせて7人の理科の先生がいます。この7人が、さまざまな機会を生かし、小学校、中学校、高校、地域の交流を深めながら「理科好き」な小学生を増やしていきたいと考えています。



吉賀高校齋藤校長先生のあいさつです。



白衣姿の理科の先生が自己紹介をしています。



光の性質を利用した小物を作っています。



吉賀高校振興会バスが送迎しました。